

あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.234 2021.5.1

国宝旧開智学校校舎は
耐震対策工事のため
令和3年6月1日から
休館します。



昭和38年～ 移築修理工事



昭和58年～ 保存修理工事



平成16年～ 保存修理工事



令和3年6月～
耐震対策工事

もくじ

- 博物館TOPICS ◇ 国宝旧開智学校校舎 耐震対策工事による休館について……………2
- 博物館のノートから ◇ 休館通信～新博物館への道～……………2
- 誌上博物館 ◇ 開智学校に時計はあったのか……………3
- ガイドコーナー ◇ はんでんぼく……………4



国宝旧開智学校校舎 耐震対策工事による休館について

令和3年（2021）6月1日から、国宝旧開智学校校舎（以下、旧開智）は耐震対策工事のため長期休館に入ります。令和のはじまりとともに国宝に指定され、さあこれからというタイミングでの長期休館となってしまうことは残念ではありますが、国宝校舎の保存と安全な公開のため実施することとなりました。

今回の工事は、漆喰壁の内部への構造用合板補強や床下への補強材設置といった非常に大規模なものです。壁を崩し、床板を撤去しての工事となるため通常の観覧ができず、漆喰壁の塗り直しは冬季を避けての施工となるといった点から、3年以上となる長期の休館が必要となります。また、外部に足場をかけるため、外観の観覧もほとんどできません。

このように、工事期間中は外部・内部ともに観覧することができなくなってしまいますが、その間はいつもと違う手法で旧開智の魅力を伝えていきたいと思っています。隣接する長野県宝松本市旧司祭館では、資

料や映像を用いた旧開智紹介コーナーを設け、校舎内にあった売店も移設して営業を続けます。ほかにも、体験講座の開催、デジタルコンテンツを活用した魅力の発信や工事見学会なども予定しています。

長い工事休館となってしまいますが、その期間でしかできない事業を重ね、旧開智の魅力をアップさせるとともに、竣工後のリニューアルオープンに期待していただけるよう活動していきたいと思っています。

（国宝旧開智学校校舎 学芸員 / 遠藤正教）

※現在の工事予定で

は、令和6年秋ごろに再開する予定ですが、工事の状況によっては延長する場合があります。



左官工事の様子（平成16～17年保存修理工事）

休館通信 ～新博物館への道～

vol.1

松本市立博物館は新博物館移転のため、令和3年度から休館しています。「休館ってことは学芸員の仕事もお休みなの？」とお思いの方も多いかもしれませんが、博物館は休館中も変わらず稼働しています。

このコーナーでは、「休館中だからこそ」お見せできる & お見せしたい博物館の裏側や、工事現場の様子、普段の展示では見られないとっておきの資料を連載形式で紹介していきます！

今回は、休館中の市立博物館の中から「資料の引っ越し」について、担当の武井がお伝えします。

現在、市立博物館には10万点以上の資料が収蔵されています。資料は、形も素材もサイズもさまざま…。今後、この膨大な資料の引っ越しを行わなければならないのですが、片っ端から箱に詰めてトラックに積み込み、引っ越し先で置き場所を考える、なんてことはできません。

博物館資料は市民の皆さまの財産で、博物館はそれらを守り伝えていく使命があります。そのため、資料に傷がついた！資料がどこかに行ってしまった！持ってきたけど入りきらない！なんてこ



資料整理風景



とがあってはなりません。そのような事態を未然に防ぎ、資料を安全に確実に運搬するため、博物館では綿密な計画を立てたうえで引っ越し準備を行っています。

資料と一緒に皆さまを笑顔でお迎えできるよう、頑張って作業してまいります。

新博物館の開館をお楽しみに！

（松本市立博物館 学芸員 / 武井成実）

開智学校に時計はあったのか

1 明治の改暦と西洋時計

江戸時代以前の一般の人々は、時刻制度として自然のリズムに沿った不定時法を利用し、「時の鐘」といわれる時刻ごと鳴らされる鐘の音によって時刻を把握していました。明治時代になると、欧米の近代的な諸制度を導入する上で、欧米で導入されていた定時法（現代の時法）による時間割に基づき、人々が一斉に行動する必要性が生じました。そのため明治政府は明治6年（1873）に改暦を行い、暦を太陰暦から太陽暦へ、さらに時刻制度を不定時法から定時法へと改めました。

この明治の改暦によって、分単位を正確に計ることができる西洋時計^{*1}の需要が高まります。特に近代的な制度を導入した公共機関では、西洋時計の設置が急務となりました。

2 開智学校と時間割

明治維新以後、様々な欧米の制度が導入されました。学校教育もその一つです。明治政府は、明治5年に学制を發布し、国民皆学を目指し、まずは全国に小学校を整備します。松本でも、開智学校をはじめ多くの学校が開校しました。

これらの学校では、改暦によって変更されたばかりの定時法を使い、規則や時間割が定められていました。明治6年に出版された「小学生徒心得」の第2条には、「毎日参校ハ受業の十分前タルベシ」と定められています。また、開智学校開校当初の授業の時間割は、午前9時から始まり、昼食・体操1時間を除いては休憩なしで2時間ずつ授業をするというものでした。翌年に筑摩県から出された「習業時間割概表」に基づき、各50分ずつの授業と授業の間に体操を5分挟む時間割に変更されたと言われています。



旧開智学校校舎特別展示室 撮影：山田毅

このように、開智学校では、開校当初から定時法による規則や時間割を使用しており、10分前登校や50分の授業のように分刻みの行動をしていたことがうかがえます。

3 開智学校と西洋時計の存在

開智学校には先述のとおり、当時の時間割や規則から見れば、開校当初から正確に分単位まで時間を計ることができる西洋時計が存在し、使用されていたと考えられます。

国宝旧開智学校校舎が所蔵する文書の中にも、時計を使用していたことがうかがえる資料があります。明治8年「金銭出納帳」には、6月7日に6円25銭で時計を一つ購入、また同年8月23日・31日両日に時計の直し賃を支払っています。特に8月の直し賃は、明治8年以前から使用している時計の修理を行ったものと考えられます。さらにほぼ同時期に時計の購入と修理を行っていることから、複数の時計を使用していたとみることができます。

4 おわりに

明治9年に竣工した開智学校新校舎の八角塔屋は、もともとは紙天井でしたが、翌年には板張りに変わり半鐘が吊るされ、授業の始業や終業の時間を知らせていたと考えられています。



左：八角塔屋外観 右：八角塔屋内観 撮影：山田毅

開智学校では、時代の最先端の教育を行うだけではなく、時間の管理の上でも近代的な時刻制度を、いち早く導入していた様子がうかがえます。

今後、時計だけでなく近代的な時間をどのように教育したのか、開智学校と時の記念日との関係などにも焦点をあて、調査していきたいと思います。

※1 江戸時代に使われていた和時計と区別し、欧米から輸入された定時法に対応した正確な時計。

参考文献

『重要文化財旧開智学校建築編』2017年 重要文化財旧開智学校校舎

『開智学校の教育』2015年 重要文化財旧開智学校校舎（松本市立博物館 学芸員／原澤知也）

転入・新規採用 よろしくおしいします。

係長 館長 中嶋 岳大 (旧制高校)
主査(学芸員) 大島 浩 (美術館→時計博物館)
会計年度任用職員 館長 中村 博見 (窪田空穂記念館)
会計年度任用職員 館長 松田 佳子 (時計博物館)
会計年度任用職員 館長 田堂 誠 (四賀化石館)
会計年度任用職員 小倉 君子 (生活保護課→民芸館)

課内異動 改めておしいします。

主事(学芸員) 原澤 知也 (時計博物館→市立博物館)



退職・転出 お世話になりました。

課長補佐 館長 朝倉 一樹 (旧制高校→文化財課)
主事(学芸員) 伊藤 雄太 (市立博物館→生涯学習課)
会計年度任用職員 館長 勝野 恒彦 (窪田空穂記念館→退職)
会計年度任用職員 館長 浅村 晋 (時計博物館→退職)
会計年度任用職員 館長 岩岡 秀行 (四賀化石館→退職)
会計年度任用職員 館長 春宮 聖美 (市立博物館→福祉政策課)
会計年度任用職員(学芸員) 西村 奈美 (民芸館→退職)
会計年度任用職員 下元 寿暢 (市立博物館→退職)

ガイドコーナー はてんぼく

展示スケジュール

詳細はホームページへ! <http://www.matsu-haku.com/> まる博 検索

館名称	4月	5月	6月
国宝 旧開智学校校舎	■企画展「開智学校と地震」 4/24(土)～5/31(日) ※休館日5/17(日)		
松本市はかり資料館	■工芸の五月参加企画「中町と民芸」 4/29(土)～5/30(日) ※月曜休館(休日の場合は翌平日)		
松本市時計博物館	■時の記念日企画展「古時計の魅力」 5/22(土)～6/20(日) ※月曜休館(休日の場合は翌平日)		
重要文化財馬場家住宅	■「松本押絵雛による端午の節句展」 5/1(土)～6/6(日) ※月曜休館(休日の場合は翌平日)		

重文馬場家住宅から

☎0263-85-5070

馬場家文書を読む

馬場家に残る文書を読み解き、記された内容や当時の時代背景などを解説します。

日時 第1回目 5月29日(土)
第2回目 6月26日(土)
各回午前9時30分～11時30分

料金 500円

定員 各回10名

講師 信濃史学会会員 太田秀保氏

申込み 第1回目は5月8日(土)午前9時から
第2回目は6月12日(土)午前9時から
電話で馬場家住宅まで



歴史の里から

☎0263-47-4515

①はた織り体験

昔ながらのはた織り機で、「裂き織り」を体験してみましよう。

②草木染め体験

草木を使ってシルクのショールを染めます。

③みずすず細工体験講座

地元で採れるすず竹を使ってコースターを作ります。

④親子はた織り体験

親子で「裂き織り」を体験してみましよう。

日時 ①5月19日(水) 午前10時～正午、午後1時～3時
②5月30日(日) 午前9時30分～正午
③6月13日(日) 午前9時30分～正午
④6月29日(火) 午前10時～正午、午後1時～3時

料金 ①③④1,000円(材料費等)・②2,000円(材料費等)

定員 ①④午前、午後とも各5名(組)・②③各回5名

対象 ①②③大人・④小学生以上の親子(2人1組)

申込み 原則、開催月の6日から電話で歴史の里へ(休館日の場合その翌日)

※申込み・問合せは各館へお電話ください



旧山辺学校校舎から

☎0263-32-7602

昔の遊び道具作り教室

昔のおもちゃを手作りします。

日時 6月20日(日) 午前9時～正午
会場 教育文化センター 206会議室
定員 25名

講師 荒田直氏、青柳秀氏

申込み 6月5日(土)午前9時から電話で旧山辺学校校舎まで



あとがき

今号から「休館通信～新博物館への道～」という連載コーナーを設けました。私たちも新博物館へ向けて、具体的に行動を起こしていく段階になりました。この「あなたと博物館」も新博物館に向けて、より見やすく、よりよい内容の館ニュースになるように編集を頑張っていきたいと思います。

松本市立博物館 原澤知也

あなたと博物館 No.234

発行年月日/令和3年5月1日

編集・発行/松本市立博物館

〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133

URL: <http://www.matsu-haku.com/>

e-mail: mcmuse@city.matsumoto.lg.jp



印刷 川越印刷株式会社